

土壌中の放射性物質測定結果(速報値)

分析機関: 中外テクノス株式会社
試料採取日: H23.6.6~H23.6.8

No.	学校(園)名	採取日(天気)	校庭(Bq/kg)				No.	学校(園)名	採取日(天気)	校庭(Bq/kg)			
			I-131	Cs-134	Cs-137	合計				I-131	Cs-134	Cs-137	合計
1	成田小	6/6(晴)	不検出	84	89	173	21	名木小	6/7(晴)	不検出	234	276	510
2	遠山小	6/7(晴)	不検出	235	250	485	22	高岡小	6/7(晴)	不検出	49	53	102
3	三里塚小	6/7(晴)	不検出	130	149	279	23	大須賀小	6/8(曇)	不検出	137	132	269
4	東小	6/7(晴)	不検出	283	296	579	24	桜田小	6/8(曇)	不検出	169	193	362
5	久住小	6/7(晴)	不検出	157	165	322	25	前林小	6/7(晴)	不検出	105	116	221
6	豊住小	6/7(晴)	不検出	363	412	775	26	津富浦小	6/8(曇)	不検出	208	278	486
7	八生小	6/7(晴)	不検出	190	222	412	27	川上小	6/7(晴)	不検出	36	34	70
8	公津小	6/6(晴)	不検出	101	116	217	28	公津の杜小	6/6(晴)	不検出	108	121	229
9	向台小	6/6(晴)	不検出	106	151	257	29	美郷台小	6/7(晴)	不検出	153	167	320
10	加良部小	6/6(晴)	不検出	85	80	165	30	成田中	6/6(晴)	不検出	152	154	306
11	橋賀台小	6/6(晴)	不検出	130	169	299	31	遠山中	6/7(晴)	不検出	123	136	259
12	新山小	6/6(晴)	不検出	167	198	365	32	久住中	6/7(晴)	不検出	110	107	217
13	吾妻小	6/6(晴)	不検出	96	109	205	33	西中	6/6(晴)	不検出	150	161	311
14	玉造小	6/6(晴)	不検出	84	98	182	34	中台中	6/6(晴)	不検出	177	205	382
15	中台小	6/6(晴)	不検出	90	115	205	35	吾妻中	6/6(晴)	不検出	181	187	368
16	神宮寺小	6/6(晴)	不検出	116	121	237	36	玉造中	6/6(晴)	不検出	205	229	434
17	平成小	6/6(晴)	不検出	32	42	74	37	下総中	6/7(晴)	不検出	84	84	168
18	本城小	6/7(晴)	不検出	189	192	381	38	大栄中	6/8(曇)	不検出	152	159	311
19	滑河小	6/7(晴)	不検出	35	38	73	39	成田高等学校付属小学校	6/6(晴)	不検出	279	301	580
20	小御門小	6/7(晴)	不検出	331	353	684	40	成田高等学校付属中学校	6/6(晴)	不検出	143	172	315

I :ヨウ素 Cs:セシウム

放射能の単位: ベクレル (Bq)

ある物体に含まれる放射性同位元素が1秒間に壊れる数(放射性物質の量も表します)。放射性同位元素が1個壊れる時に必ず放射線を1本出すというわけではないので、カウント数と放射能(Bq)は一致しません。放射性物質によって、放射線の性質や、半減期が変わるため、違う核種の放射能を足しあわせる事は原則としてできません。以前はラジウムを元にして作られたキュリー(Ci)という単位が使われ、1Ci=3.7×10¹⁰Bqでした。

[独立行政法人 放射線医学総合研究所のHPより]

土壌検査の結果から

放射性物質による土壌汚染の基準値はありませんが、今回の検査で数値の差こそあれ、市内全ての検査地点で放射性セシウムが検出されたことは、福島原子力発電所の事故の影響と考えられます。しかし、放射性ヨウ素が全く検出されていないことは、その半減期を考えると、事故後、最近ではほとんど福島原発からの放射線による影響は受けていないものと推察できます。また、並行して実施した空間線量の計測結果を見ると、地表5cmの高さで0.10マイクロシーベルト/時~0.32マイクロシーベルト/時という結果でした。成田市では原発事故前の計測値がないため、あくまでも推測ですが、今回の空間線量の調査結果と、先月の調査結果にほとんど差がないことから、事故直後に原発から放出され、風や雨で地表に降りた放射性物質(特に半減期の長い放射性セシウム)が現在でも放射線を放出しているためと考えられます。

なお、土壌検査結果が計測地点により差が大きくなったのは、広い市域のため、場所によって放射性物質の影響が異なるのはもちろんのこと、風を遮る構造物の有無や雨水の集まりやすさ、土質の違いも関係していると思われます。